

平成20年度第3回機関リポジトリ運営会議議事録

日 時：平成21年3月4日（水）16時～17時05分

場 所：附属図書館会議室

出席者：渡辺、山内、福川、岡室、坂、尾方、阿部、大場各委員

欠席者：杉山、土肥委員

議題

機関リポジトリ運営委員の交替について

統括責任者より着任の挨拶と、役員補佐の委員が山内弘隆委員に交替したという紹介があった。

審議事項：

1. 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI事業)平成20年度委託事業成果報告書・平成21年度委託事業 提案書について

事務局(高橋主査)より、資料1に基づき、本年度の報告と来年度の事業計画案の提案について、以下のとおり説明があった。

- ①平成20-21年度国立情報学研究所 CSI 委託事業は、初年度の事業が2月末日に完了し、報告書の提出が3月19日までである。
- ②提案の骨子は、来年度事業計画で最重点課題を日本語雑誌論文の登録にしたいというものである。
- ③昨年の申請時には科研費報告書を第一位にしていたが、研究支援課との打合せの結果、来年度は従来どおり、個別に登録できそうなものを依頼する方式としたい。
- ④来年度の計画の日本語論文の遡及的登録は著作権処理に相当の手間がかかることが十分に予想できる。具体的方策はこれから検討するが、当初予定よりも、人件費への配分を増やして対応したい。
- ⑤今後発生するコンテンツの収集策として、紀要・DP/WP・学位論文は定期的に入手する仕組みをつくった。雑誌掲載論文については、研究者DBと連携する。

阿部委員から紀要の公開率のアップについても現在の取組み状況の確認があり、学会名簿の活用や研究室の同窓生を照会してはどうかとの意見があった。審議の結果、原案は了承された。

報告事項：

1. コンテンツ収録の進捗状況について

事務局(高橋主査)より、資料2に基づき、12月以降の登録状況の報告があった。日本語雑誌論文に着手したが相当の時間数がかかること、学位論文については新規授与者の許諾率が伸びないことが報告された。学位論文については、統括責任者から図書の出版への意欲が高いので収集が困難であるという補足説明があった。尾方委員より、学位規則で公開が義務づけられている点について質問があり、事務局から大学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができるため、要旨のみが研究科のウェブサイトで公表されているという回答があった。要旨のみの登録やメタデータのみ登録をすべきか否かについて継続的に検討をすることになった。

2. 学位論文登録の全国的動向について

事務局(高橋主査)より、資料3に基づき、博士論文の海外流通のための全国的な動向の説明があった。それらに対応するため、博士論文のカテゴリの切り分けとメタデータ項目の見直しについて、本学の対応が報告された。

3. RePEc データ提供計画の進捗状況について

事務局(大田垣)より、RePEc データ提供について報告があった。7 部局からの申請があり、現在、プログラム改修はすんでいる。機関で 1 つのサーバーからデータ提供を行う必要が生じたために、経済研究所の既存 3 誌と調整をおこなっているという報告があった。経済研究所の阿部委員からは、サーバーの一元化は部局側でのファイル管理が簡単になるメリットがある、RePEc へのデータ提供だけなら問題はないが、SSRN など他にもハーベスティングしているものがあるという説明があった。

4. 図書館セミナーでの HERMES-IR ガイダンス実施結果

事務局(高橋主査)より、11 月から 12 月にかけて 3 回実施し、参加者は 12 名という報告があった。コンテンツ収集のための著作権ガイダンスだが、実際の登録には結びついていないという事務局からの問題提起があった。統括責任者からは、大学院生の業績のとりまとめが、各研究科で課題となっているので、HERMES-IR への登録と関連づける可能性について検討してはどうかという発言があった。

5. デジタルリポジトリ連合 (Digital Repository Federation) の関東地区ワークショップ への参加および国際会議(DRFIC2009)への協力について

大場委員より、デジタルリポジトリ連合 (Digital Repository Federation) についての紹介があり、資料 4 に基づき、2 月 10 日に高橋主査が東京工業大学で発表をしたという報告があった。DRF では 2009 年 12 月 3 日に東京工業大学で国際会議を開催する予定をしており、本学が地域組織委員会の副幹事館になったと報告があった。

その他

1. 研究者 DB と機関リポジトリの連携について

事務局(高橋主査)より、資料 5 に基づき、機関リポジトリと研究者 DB と連携することが今後の収集には効率的であるという将来構想が示された。予算獲得が課題だが、尾方委員より、全学教員の入力のためのコストが削減されるのならば歓迎するという発言があった。山内委員からは次期中期計画に記載する予定であるという発言があった。

2. 来年度の委員の交代について

統括責任者より、各研究科の委員の任期は、3 月 31 日までなので、次期委員について、研究科長に人選を依頼する (再任も可) という案内があった。

連絡事務局 情報推進課コンテンツ主担当 (内線 8247)

(配布資料)

- 1 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 平成 20 年度委託事業成果報告書
平成 21 年度委託事業 提案書 (領域 1) (案)
- 2 コンテンツ収録の進捗状況について
- 3 学位論文登録の全国的動向について
- 4 DRF-Ookayama 関東地区ワークショップ ポスター
- 5 研究者 DB と IR の連携構想図